

土木学会四国支部『土木紀行』No.15 (愛媛県)

～大洲城～

大洲城は、愛媛県大洲市にあった城です。別名としては地蔵ヶ嶽城、比志城、大津城（大洲の旧称）などがあります。図-1は、大洲城周辺を示したものです。

《大洲城の歴史》

肱川に面した丘陵上に建つ大洲城の歴史は、元徳2年（1330）の伊予守護宇都宮豊房による築城に始まると言われています。

永禄11年（1568）宇都宮は河野・毛利連合軍に敗れ、城は河野の武将大野直昌が預かることとなりました。

天正13年（1585）、羽柴秀吉は四国平定を果たします。この戦いで、大野直昌の弟直之が秀吉方の小早川・吉川連合軍に敗れました。戦後、小早川隆景は、伊予35万石を与えられ湯月城を居城とし、大津城を枝城としました。

その後戸田勝隆が城主として入りましたが、文禄4年（1595）に藤堂高虎が入城すると近世の城郭として整備され、慶長14年（1609）には淡路の洲本から脇坂安治が入城し、この2人の時代に天守をはじめとする建物が建造されました。

また脇坂安治の時代に従来の「大津」から現在の「大洲」に城名が変更されたと言われています。元和3年（1617）に伯耆米子から6万石で加藤貞泰が入り、以後加藤氏が12代に渡り大洲藩主として治め明治維新を迎えました。維新後は城内のほとんどの建築物は破却されたものの、地元住民の活動によって本丸の天守・櫓は一部保存されました。しかし、天守は老朽化と構造上の欠陥のために明治21年（1888）に解体されました。現在の天守は伝統工法を用い、平成16年（2004）に復元されたものです。



図-1 大洲城周辺



写真-1 大洲城天守

写真-1は大洲城天守です。現在の
大洲城天守は、平成16年（2004）に竣工
したもので、戦後初の当時の工法・木
造で復元された四重四階天守です。

写真-2は台所櫓で内部に台所を思わ
せる土間があり、煙出し用の格子こうし
窓が開けられています。

現在の台所櫓は安政4年（1857）の大地
震で大破し、安政6年（1859）に再建さ
れたものです。

昭和45年（1970）に解体修理を行いま
した。



写真-2 台所櫓（国指定重要文化財）



**写真-3 高欄櫓（左）と西多間櫓（右）
（国指定重要文化財）**

写真-3は高欄櫓で大洲城の中で
唯一、2階に縁と高欄のある櫓で、こ
こからは城内が一望のもとに眺められ
ます。

現在の高欄櫓は、台所櫓同様、安政4
年（1857）の地震で大破し、万延元年
（1860）に再建されたものです。

昭和45年（1970）に台所櫓とともに解
体修理を行いました。

大洲城に興味を持たれた方は、ぜひ足をお運び下さい。

調査担当：愛媛大学大学院理工学研究科生産環境工学専攻1回生 中島裕史

参考文献：大洲市ホームページ

<http://www.city.ozu.ehime.jp/>